



小弓城跡

Site of Oyumi Castle



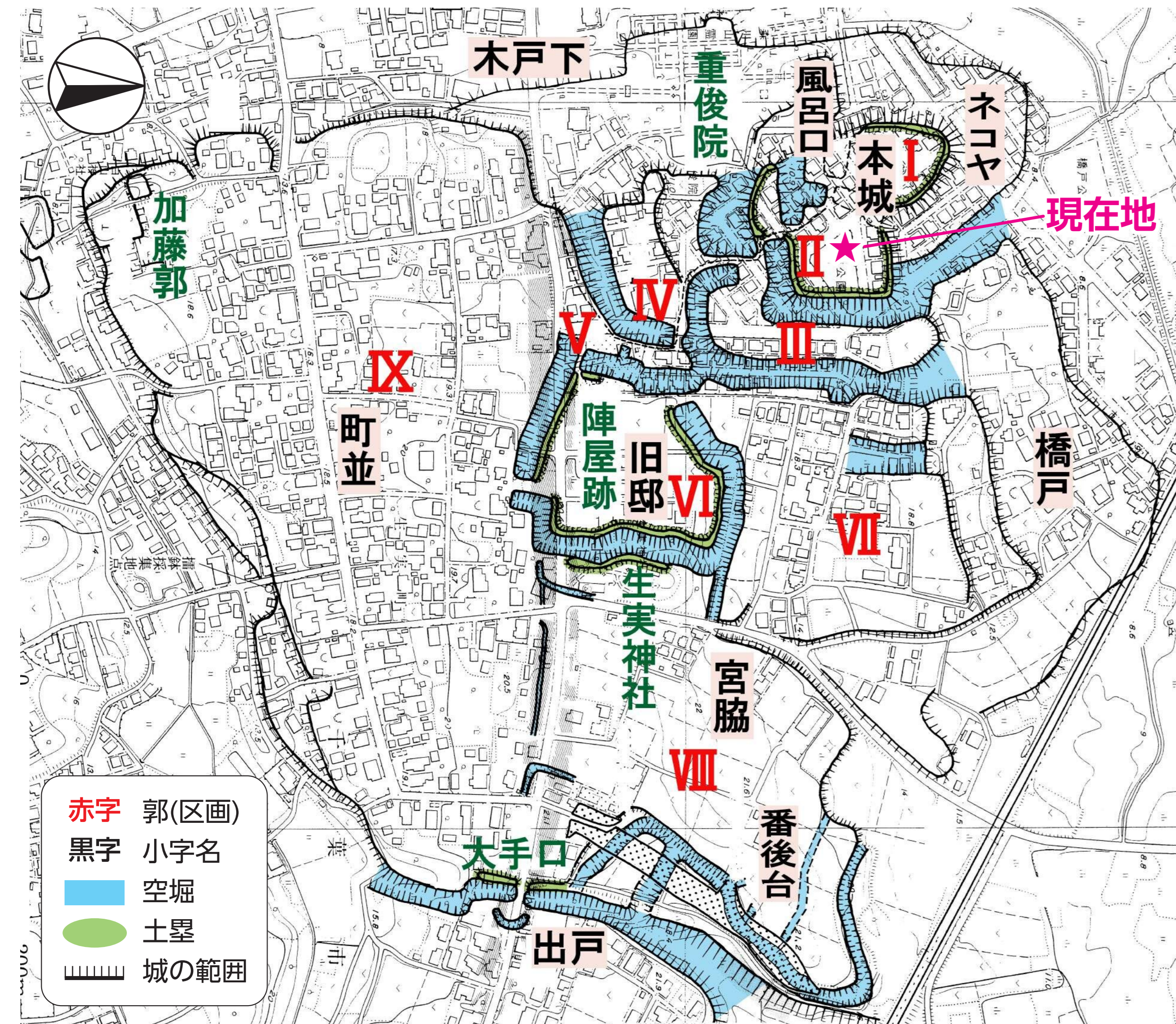
千葉氏ポータルサイト Foreign Languages



千葉一族が諸勢力と奪い合った城

15世紀後半、千葉氏が本佐倉城(酒々井町・佐倉市)に本拠を移すと、千葉一族で家宰(重臣筆頭)の原氏が小弓(生実)城に入り、現在の千葉市周辺を支配下に置きました。

小弓(生実)地域は、上総国と下総国の国境付近に位置し、水陸交通の要衝でもあり、房総半島中部の政治・経済上の重要地域でした。そのため激しい争奪の対象となります。



永正14年(1517)、小弓城は下総への勢力拡大を図る真里谷武田氏に奪われ、翌年、武田氏が支援する足利義明が入りました。後に小弓公方と呼ばれた義明は南関東に勢力を広げ、その本拠となる小弓地域は、戦国時代前期の関東における政治的中心地の一つとなりました。

天文7年(1538)、第一次国府台合戦で義明が討たれると、原氏は小弓城を取り戻しますが、今度は東京湾沿岸の支配を狙う里見氏の攻撃を受けます。北条氏の支援を得て対抗しましたが、元亀元年(1570)、里見軍に小弓地域を占領され、原氏は臼井城(佐倉市)に本拠を移しました。

天正5年(1577)、北条氏と里見氏の和睦により、ようやく原氏は小弓地域を完全に取り戻しました。しかし、天正18年(1590)、原氏が従っていた北条氏が豊臣秀吉に敗北すると、原氏も滅びることになりました。



房総半島勢力図